

令和7年度第1回山口警察署協議会会議録

開催日時		令和7年6月26日（木） 午後3時00分から午後5時00分までの間
開催場所		山口警察署4階 講堂
出席者	委員	磯村委員、春永委員、藤井委員、真庭委員、佐伯委員、金子委員、吉本委員、福田委員、岡 委員、品川委員、竹松委員、野村委員、長村委員 計13名
	警察署	署長、副署長、主幹、警務課長、警察安全相談課長、留置管理課長、生活安全課長、地域課長、刑事第一課長、刑事第二課長、交通課長、警備課長 計12名
議題		1 所管業務の推進状況 2 匿名・流動型犯罪グループによる犯罪から県民を守るための対策
1 会長挨拶 令和7年度第1回山口警察署協議会を開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。 この度、会長を引き受けることになった。行き届かない面があるかも知れないが、精一杯務めさせて頂く。 警察署協議会の委員は、警察署長に意見を述べる立場にあるものと承知している。 このことを誇りとし、これから皆様と協力して会議を盛り上げていきたいと考えているので、よろしくお願いします。 少し管内の話をさせていただくと、4月初旬に上小鯖の県道上において横断歩道を横断中の高齢男性と高齢男性運転の車両が衝突する死亡事故が発生したと伺っている。 また3月頃には市内居住の70歳代男性が官公庁職員を名乗る男に約3,500万円を騙し取られる詐欺事件が発生し、5月に入って被疑者を逮捕したとのニュースが大きく報じられていた。 詐欺事件については被疑者を逮捕しているが、どうしたら詐欺事件の被害に遭わなくて済むのか、どうしたら交通死亡事故が防げるか、家庭や職場でもっと話さなければならぬ、そんなことを強く感じたところである。 今回の諮問事項は、「匿名・流動型犯罪グループによる犯罪から県民を守るための対策」についてであるが、後程、生活安全課長から説明があると思う。 まずはこの課題について理解を深め、委員の皆さんと協議する中で、我々協議会委員で何か後押しできることはないか、探っていきたいと考えている。 2 署長挨拶 (省略)		

3 所管業務の推進状況（署長）

各課の取組及び令和7年5月末時点の統計数値などにに基づき、現在の業務推進状況について、以下の項目に沿って説明を行った。

- (1) 採用募集活動
- (2) 警察安全相談
- (3) 犯罪抑止と検挙活動
- (4) 地域警察活動
- (5) 交通事故抑止

4 諮問事項説明（生活安全課長）

【匿名・流動型犯罪グループによる犯罪から県民を守るための対策】

- (1) 匿名・流動型犯罪グループとは
- (2) 闇バイト加担防止対策
- (3) 被害防止対策
- (4) 諮問事項

5 協議・検討 （委員）

自転車盗の被害者について、大学生や高校生が多いという説明であったが、自転車盗を盗む被疑者についても学生が多いのか。

（生活安全課長）

自転車盗の被疑者についても、大学生あるいは高校生が多いという傾向にあり、日頃から自転車を頻繁に使用する人物で、移動手段がなく困っていたという安易な理由で簡単に自転車を盗んでしまう傾向が認められる。

（委員）

事件を起こして警察に捕まった場合、その後の処分や処罰はどのようになっているのか。また、保護者に連絡をするほか、どこかに通報するなど事後手続きについて教えて欲しい。

（生活安全課長）

少年被疑者の場合になるが、被疑者として取調べを実施した後、保護者に連絡をする。保護者に連絡をする理由は、身柄請けと言って親御さんに迎えに来てもらい、少年がした行為について説明し、今後の指導・監督をお願いしている。

それとは別に、教育委員会との協定があり、その取決めに基づいて連絡を取り、学校側に対し事実関係について報告している。

子供だけが悪い事をしたとして事件処理するのではなく、それを取り巻く保護者と学校とが情報を共有し、子供達がきちんと上手く立ち直ることのできる体制をとれるようにしている。

（委員）

匿名流動型グループのような犯罪というのは、海外でも多く発生しているのか。

（署長）

確かに海外でも発生しているが、日本で事件を起こしていた人物が海外に行った場合もある。

現状で言えば、カンボジアなどの国が犯罪の舞台となり、実際に現地に行ってみると主犯格は中国人であることが多い。そして、そこに残っている日本人は、

日本に送還される。

海外だけで発生している犯罪なのかというとそうではなく、日本にも匿流型グループは存在する。しかし、このような組織として活動しておらず、いわゆる小さな半グレ集団による犯罪も発生している。

国内外を問わず、そういった組織や集団が存在するということである。

(委員)

1 か月くらい前のことになるが、銀行から電話があり、相手方は自動音声ガイダンスで、まず「支払いが滞っている」という話から始まり、ガイダンスの指示に従い最後まで聞いたところ「何日までに支払って下さい」という内容だった。

この話を友人に相談すると、詐欺ではないのかと言われたので、支店名などを調べた結果、全て偽りのものだった。この種の電話は多いのだろうか。

(署長)

この様な詐欺電話や詐欺メールについては、非常に多いのが現状である。最終的に現金を騙し取ることが目的であり、冷静になって考えるとおかしいことに気付くはずである。

(委員)

諮問事項について、犯罪加担防止というのがあった。光市の事件については関東の子供が関与していたが、山口県内の子供が関東方面に行き、闇バイトや匿流型グループに関わっていたという事例はあるのか。

(署長)

山口県内の人物が、実際に海外等に行って事件を起こしたという事例はあると承知している。

(委員)

私は大学の学生支援センター長をしているので、学生の事件・事故を一括して管理している。有事の際、案件によっては大学側がすぐに警察に連絡して事情を説明することになるのだが、以前大学側が知らないうちに裁判まで話が進んでいたことがあり、被害者本人やその親族から「大学は何も対応しないのか」と言う話をされ、そこで初めて知った時もある。

中・高生等の未成年者が事件を起こした場合は、未成年者であるので保護者等への連絡は必須であるが、大学生だと判明していれば大学に連絡が行くような仕組みにはなっていないのか。

(署長)

例え、被疑者という立場であっても、プライバシーの保護という観点から直接大学側に連絡することはないが、被疑者が弁護士に依頼しているような場合は何かしらの形で大学に連絡等があるかも知れない。

また、学校側が被害に遭うなど、学校と関係あるような案件であれば対応が変わってくる。

(委員)

学生が何某かの事件に関係しているか否かの問い合わせをしても、事案概要等について教えてもらえないのか。

(署長)

大学側から問い合わせがあったとしても、事実の有無に関係なく基本的に回答できないのが実情であり、警察官も公務員なので守秘義務があるというところをご理解願いたい。

6 その他警察業務全般に対する意見・要望等

(委員)

一般市民から、怪しい人を自宅近くで見かけたが、もしかすると強盗に入られるかも知れないという相談や通報等はあるのか。

(署長)

県下的に見ると不審車両を目撃した等の通報や相談はある。

不審車両が目撃されたという家が資産家等の家であれば、下見行為の可能性があるので、そうなれば警察も対応を考えることになる。

この種通報は頻繁にあるわけではなく、ここ最近では山口警察署管内での通報はない。

(委員)

私は山口市内で住宅建築の仕事をしているが、先日、お客さんから自宅の周囲を不審な人物が1か月間くらいの長期間にわたり徘徊していたという相談を受けて、後日防犯カメラを設置したという話を聞いた。

怖い話であり、最近は防犯カメラの需要が多いと感じている。

警察はパトロールをしてくれるが、その人個人に特化したパトロールは難しいのが現状だということも理解できる。有事の際の対処方法について、防犯カメラの設置には費用が掛かるので、他に何か良い方法はないだろうか。

(署長)

このような事案に対応するとなれば、やはり防犯カメラで録画するのが最も有効だと思われる。

被害者に危機が迫るという状況が認められる場合は、警察に相談していただき、その方が防犯カメラを設置できない事情があれば警察がカメラを用意して設置することも可能である。

7 配布資料

- (1) 所管業務説明に関する資料
- (2) 諮問事項に関する資料

8 その他

- (1) 監察関係事案説明

令和7年3月及び5月中における警察職員の懲戒処分事案について説明した。

※ 質疑応答なし

- (2) 次回日程

次回の協議会は、令和7年10月末頃に開催予定とした。